2014 年（平成 26 年）6 月 22 日　　第 2 号

砥山農業クラブ
砥山農業小学校通信

快晴の下たくさんの農作業を楽しむ

6 月 22 日（日）の授業

時限	カリキュラム	会場
1	リンゴの摘果	西本果樹園
2	ブドウの葉もぎ	八剣山ワイナリー
3	ジャガイモ観察・野菜の苗植え	八剣山果樹園
4	イチゴの収穫	桜井農園

５月下旬から続いた好天が６月 10 日頃から 10 数日間連続して本州の梅雨のような天気になりました。梅雨のない北海道には珍しく、たくさんのサクランボの実が割れるなどの被害が出ています。一転して、22 日（日）は快晴の下で農業小学校の授業が行われました。

１時限目は「リンゴの摘果」作業を西本果樹園で行ないました。この時点でリンゴは１～２cm のかわいい実を無数に付けています。木のそばでなぜ摘果（不要な実を落とすこと）するのか、どのように摘果するのかといった要領の説明を受けて作業を始めました。はじめは「リンゴがかわいそう」などといって恐る恐る実を取っていましたが、親やスタッフの援助を受けながら大胆に作業を行いました。最終的な収穫は結んだ実の１０分の１程度になるそうです。

２時限目は「ブドウの葉もぎ」作業を八剣山ワイナリーに移動して行いました。ワイン用のブドウは数ミリの実を無数に付けた房がいっぱいです。この房に周囲の葉が影をつくると太陽光が遮られ成長の妨げになります。それで房に光が十分にあたるよう亀和田園主の指導で、確かめながらていねいに葉を摘み取りました。作業後はワイナリーに入り、ジャムの試食や清涼飲料水の試飲を楽しみました。

３時限目は「ジャガイモ観察・野菜の苗植え」です。種いもを植えてから１カ月余りで茎や葉が 30 から 40cm に育ち成長の早さに驚きの声もあがりました。また種から植えたトウモロコシは 10cm 余りでこちらも順調に育っています。

野菜の苗植えはカボチャから始めました。カボチャは中米を起源としヨーロッパ経由で 16 世紀にポルトガル船によって日本に渡来しました。このときカンボジアから来たと伝えられたことにより、「カボチャ」と呼ばれるようになりました。今回植えたのは「ハロウイン、ほっとけ栗たん、くりたろう」の３種、計 24 本です。カボチャの名前は品種改良されたときに付けられたものが多く、学術名として認知されている訳ではないようです。ポットに入った 30cm ほどの苗をひと株ひと株、根を傷めないようにていねいに植えました。

「サツマイモ」は南国育ち。保温のいい緑色のマルチがかけられた約 20 mの畝に、30cm 間隔の穴を開け 30cm ほどに育った苗を植えました。苗に根はなく中間の節の部分から次第に根が出てくるそうです。植え付けは他の野菜と違って斜め横に寝かせるように植えます。マルチの中へ手を入れて茎の部分に土をかけマルチの上にも葉が直接ビニールに触れないように土を置きました。たっぷりと水をやって全体を寒さや病害から保護するパオパオという資材で覆いました。「枝豆」は 10cm ほどに育った苗を 30cm 間隔、約 30 mの列で３列植えました。苗で植える理由は、豆類は種そのものが地中から持ちあがってくるので、鳥に食べられてしまうのを防ぐためということです。

４時限目は「イチゴの収穫」。桜井農園で園主から「イチゴの管理と作業」という資料をいただきました。説明もそこそこにハウスに入りました。けんたろうという種類でハウス内には真っ赤に実ったイチゴからのいい匂いが満ちていました。皆が楽しみにしていた収穫で、40 粒以上食べましたというお友だちもいるなど大いに楽しみました。

次回は、７月 20 日です。

発行：砥山農業小学校（代表　桜井　学）
住所：〒 061-2275 札幌市南区砥山 126 番地　八剣山果樹園内
電話・FAX：011-596-2280
e-mail: info-h@hakkenzan.jp　http://www.hakkenzan.com/nosyo/

6月22日（日）のスナップ

朝のミーティング

リンゴ摘果１

リンゴ摘果２

リンゴ摘果３

リンゴ摘果４

リンゴ摘果５

リンゴ摘果６

ワイナリー　ブドウ葉摘み

清涼飲料水試飲

ジャガイモと右側はトウモロコシ

カボチャ苗　植え方説明

カボチャ苗植え２

カボチャ苗植え３

サツマイモ苗　植え方説明

サツマイモ苗植え２

枝豆苗

枝豆苗植え

イチゴ収穫体験